

コミュニティ

人々

My home town story

矢倉

2022.MAY
131号

5

〔編集発行〕
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団
〔作成協力〕
矢倉学区未来のまち協議会

少し季節は過ぎましたが、桜の季節に矢倉まちセンで出会ったワンシーン。そう、ここは知る人ぞ知る桜のセンターなんです。そして5月5日は「立夏」。暦の上では夏が始まります。子どもの日・母の日・父の日と家族のきずなを深めていく季節でもあります。この日のこと覚えてくれてたらいいな

矢倉

矢倉は昔から交通の要衝として栄え、東海道が地域の中心部を通り、平行して国道1号・京滋バイパス・JR が通っている。またJR 南草津駅の開設などにより生活の利便性が高まったことから若い世代やファミリー層が増える傍ら、高齢化も進みつつある。65歳以上の人の割合は市内14学区の中でも5番目に高い地域となっている。

東海道(徒歩)と矢橋道(船)の分岐となったこの地で旅人が思案したことから「急がばまわれ」の言葉が生まれた。

※矢倉学区「地域まちづくり計画」より抜粋(一部変更)

●総人口	:	9,773人 (137,225人)
0-14歳	:	1,279人 (20,293人)
15-64歳	:	6,159人 (86,068人)
65歳以上	:	2,335人 (30,864人)
●世帯数	:	4,419戸 (61,388戸)
●65歳以上の割合	:	23.9% (22.5%)

※外国人を含めた集計/カッコは草津市全体
草津市HPより(令和4年2月28日時点)

FEATURE

いつもの道の、いつものお地蔵さんは。

くさつ・やぐら地蔵文化研究会 河崎凱三さん

いつもの道にいつものお地蔵さん。ふと見ると、お供えや前掛けが新しくなっていて、ほんわかとした気持ちになった、なんて経験ありませんか。馴染みの風景に溶け込みながら、このまちと子どもたちを見守ってくれるお地蔵さん。

地元のお地蔵さんや地蔵盆について調べ、地域の皆さんに伝承しているのは「くさつ・やぐら地蔵文化研究会」です。



守り守られ、お地蔵さん

そもそも、なぜお地蔵さん？

草津と矢倉の両地域で「ふるさと・風景の記憶絵」制作に携わった河崎さん。その過程で高齢者が地元のお地蔵さんや地蔵盆の思い出話をたくさん語ってくれたことが印象に残ったのだとか。

そう言われると街道沿いに、路地裏に、とあちらこちらにお地蔵さんの祠ほくらがあります。お地蔵さんの縁日となる地蔵盆も、20〜30の集落ごとに祠や集会所、個人宅で今も催されているようです。

「高齢者を中心に地元の方が大切に守ってきた地蔵への祈りの

文化を知ってもらいたい。地元のコミュニティを育んできた地蔵盆という地域文化を、新しい住民の皆さんにも伝えていく必要があるのではないかと感じたのだとか。こうして矢倉と草津で仲間を募り、市民の手による調査が始まりました。

市民による調査

調査はまずお地蔵さん一休一休の寸法を測り、姿形を写真やデッサンで記録していきます。次にそのお地蔵さんを大切にお世話されてきた地元の方々に時間をかけて話を聞いていきます。なかなか地道で大変な作業です。

こうして聞き取った話を一休ごとに「由来ばなし」「地蔵盆ばなし」「こぼればなし」としてまとめていきました。

先ほど「市民の手による調査」と記しました。そう、研究会のメンバーは探求心と次代につないでいきたいとの使命感が強いものの、その道の専門家ではありません。

そこで調査した内容の学術的な裏付けや歴史、宗教的な意味合いについて補うため、様々な専門家のところにも足を運びました。石仏の研究者や地元の住職、草津宿街道交流館…。

こうして苦勞を重ねた研究の結果を矢倉・草津それぞれに冊子としてまとめたのです。お地蔵さんだけに、親しみやすく読みや

すい構成としながらも学術的にも整理された奥行きのある内容に仕上がりました。

不易流行

河崎さんは話します。

「今ほど医療が発達していなかった時代、疫病などから子どもや大切な人を守って欲しい、悩みや願いを聞いてもらいたいという祈りの対象としてお地蔵さんが存在していました。人々の心のよりどころだったんですね。だからこそ、地域での地蔵信仰は代々大切に受け継がれてきたんだと思います。」



活動の様子は、えふえむ草津
草津市コミュニティ事業団提供
「くさつ☆コミュニ Tea Time!」
オンデマンド放送でもお聞きいただけます
第23回(2021年8月)放送



お楽しみはこれからだ!

馬池町自治会 内園真知子さん

馬池町は昨年(2021年)に50周年を迎えた矢倉学区でも老舗の町内会。650戸のまちに今では70歳以上が650人。1軒に一人は70歳以上の方がいる計算です。

「高齢化で大変だなあ」なんて思ったあなた。いえいえ、とんでもなく元気なまちなんです。そう、お楽しみはこれからです。

その後、都市化する草津を象徴するかのよう、馬池町もその表情を大きく変えてきました。今日もバイパスではひっきりなしに車が行き交います。自転車の後ろに乗っていた子どもたちも巣立ったところ、内園さんは声をかけられ町の役員となりました。

内園さんが結婚を機に馬池町に越してきたのは昭和53年。「当時はバイパスどころか信号すらなくて、のんびりしたものでした。スーパーやコンビニだつてない。買い物といえば、まだちっちゃな子どもを自転車の後ろに乗せて、ご近所さんとよく草津駅前まで行ったものです。今でいうママ友ですね。同じぐらいの世代が多く、みんなよく似た生活でした」

のんびりしたもの

ここ馬池町では各組長は毎年替わりながら、会長が任命した役員さんが町内会運営を引っ張っていくシステムなんだとか。なるほど。

できることを集めれば

それから役員を10数年。町内の人の名前と特徴をすべて言えるほどまちの人を見知ったところ、会長を任せられました。

「不安もあるけど、やるからには凝りたい、盛り上げたい」。内園さんのユニークなアイデアが次々とカタチになっていきます。例えば夏まつりの流しそうめん。えつ、どこがユニークかつて? 実はこれ、まちセンから隣の公園までを流そうというもの。かなりの距離です。

馬池 博学教室

馬池町の「まちでの暮らしを楽しむ」チャレンジは続きます。

6ページに続く

行事としての地藏盆も時代と共に変化しています。例えば、夏祭りと一緒に催すことで地域の文化を伝えることができ、コミュニティも拡がりやすくなります。
※ 不易流行。カタチを変えながら新しい文化を継承していくのが『伝統を守る』ってことじゃない

「ですかね」
疫病や厄災から大切な人を守って欲しいとの切なる願い。コロナ禍の現在にも通じるものがありますね。
帰り道、いつものお地藏さんにそつと話しかけてみませんか。



河崎凱三さん

「これからの地域にはコミュニケーション力・発信力・コーディネート力の3つの力が大切」と河崎さん。

なるほど、この調査研究の話を聞けばナットクです。

とかく調査研究なんていうと専門家や研究者の話と身構えてしまいがちですが、市民ならではのアプローチ、伝え方もあるんですね。

あなたも素朴な疑問や関心ごとを、まずは身近な人に聞いてみてはどうでしょう。

ひょっとしたらそこからあなたの新しいライフワークが始まるかもしれません。

※ いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。





日乃龍王の碑

日照りが続き、雨乞いの祈りをささげると馬池から龍が天に昇り雨が降った民話が伝わる



ルルド

難病を治すという奇跡の泉とマリア像(近江草津徳洲会病院駐車場内)

近江草津徳洲会病院

馬池町



草津クレアホール

ひょうたんの瓢泉堂

古くから水筒や酒の貯蔵に重宝されてきた瓢箪(ひょうたん)は竹根鞭と並ぶ草津の名物!



ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト

おじいちゃん、おばあちゃんの記憶に残る矢倉での暮らしが描かれた世界に一つの絵。これ一枚で矢倉の自然・町並み・行事・暮らしがわかる「百聞を一見にする」絵は必見



矢倉まちセン

喫茶ランドシャフト

なかよしひろば・にこにこレストラン

家で家族とごはんを食べる時間が少ない人は、みんなと一緒にごはんを楽しみませんか。子ども高齢者も大歓迎!



矢倉まちセン

矢倉のまちづくり拠点。春には見事な桜に包まれるセンター

木村牧場

木村熊次郎氏が一頭の乳牛をイギリスから買って飼育したことから始まった木村牧場。乳牛の飼育はなんと近畿初。学校給食で飲んだ木村牛乳の味、忘れられない人も多いのでは

矢倉橋



古川酒造

江戸期創業という老舗の造り酒屋。丹精込めて造られる銘酒「天井川」をご堪能あれ



東海道

矢倉道

矢倉稲荷神社

伏見のお稲荷さんを思わせる朱塗りの鳥居が29本立ち並ぶ



草津矢倉郵便局

矢倉幼稚園

矢倉小学校



立木神社の御旅所

サンヤレ踊りとお神輿の出発地

チャップリンも愛用!?「竹根鞭」の瀬川工芸

喜劇王チャップリンのステッキもここ矢倉の竹根鞭だったとか。駐車場は昔なつかしい丸い赤ポストと「ふるさと『矢倉』風景の記憶絵」の看板でノスタルジックな空間



北向き地藏

矢倉街道沿いにあるお地藏さん。たくさんの旅人を見守ってくれていた



ホッとサロンひだまり

なんと20年以上も続く高齢者サロン。住民同士のつながりだけでなく、スタッフの居場所にもなっています



矢倉のサンヤレ踊り

市内7か所に伝わるサンヤレ踊り(国重要無形民俗文化財)。矢倉では5月に居住組の皆さんが2年に一度、若宮八幡宮と立木神社で踊りを奉納



湖南農業高等学校

聖パウロ学園
光泉中学
光泉高等学校

ゆかいな生垣(黒川さん宅)

ミッキー・マウスにイルカやクマ…様々な形に刈り込まれている生け垣は道行く人を楽しませしてくれる



正光寺

同じ敷地内に寺と神社(天満宮)がある珍しいお寺。昔は子どもの遊び場であり、作物の集荷場所でもあったとか

ぱたぱたふぁーむ

週末だけの体験農園で旬の美味しい野菜づくりにチャレンジ。「週末に畑のある生活」はいかが? ※「コミュニティくさつ 128号」参照



あそびの広場

雑草・芝生の手入れをしているのはOGC(大塚団地グラウンドゴルフクラブの皆さん)

お花の広場

手入れをしてくれているのは、大塚団地「コスモスの会」の皆さん

いこいの広場

コイやフナが気持ちよく泳いでる



“いそがばまわれ” うばがもちやと矢倉道標

広重の浮世絵「東海道五十三次」に描かれたのがココ。東海道と矢倉道の分岐であることを道標が伝える。当時はうばがもちやがあり、旅人はここで休憩しながら、この先を徒歩(東海道)か船(矢倉道)か思案したとか。そして生まれたのがあの有名なコトバ「いそがばまわれ」



立木神社



どこに〇〇
いるかな



草津市コミュニティ事業団
マスコットキャラクター
まち活マッチ

×3

園芸・料理・楽器・釣り・読書・スポーツ…。趣味は人生を豊かにしてくれます。何かを夢中で集めたり、手づくりしたり。長らくステイホームで何か始めたって人もいるのでは？

そんな一人ひとりの趣味を住民同士のつながりづくりに活かしているまちをご紹介します。

あなたにお聞きします「お隣さんの趣味って、知ってますか？」



大塚団地は草津川の近くにある静かな住宅地。分譲の開始（1973年）からまもなく50年目を迎える約360世帯、約1000人が暮らすまちです。昭和40年代にできたユータウンだけに高齢化は否めませんが、とても元気なまちです。いや、むしろ歳を重ねるごとに豊かさを感じさせてくれるまちなんです。

歳を重ねることを楽しむまち

それが証拠に、町内には俳句・よし笛・切り絵・ハーモニカ・絵手紙・編み物に囲碁将棋・パソコン教室から相撲甚句・小学生のバトンまで、約30もの個性的なサークルがあります。もちろん、通常の町内会活動や老人会、高齢者サークルなどもあつて、約10年前に改築された集会所や近くの草津川河川敷で今日も元気に活動中。もつ、笑い声が絶えません。

こんな元気な大塚団地を象徴する催しがあります。それが秋の文化祭。正式には「大塚団地ふれあい文化のまつり」。コロナ禍でここ2年は中止を余儀なくされましたが、通算24回を数える、まちの自慢イベントです。

町内の文化祭というと

FEATURE

まち、まるまるギャラリーでまちづくり 大塚団地の文化祭

大塚団地 三木妙子さん



以前からしていた交流サロンは、みんなで歌ったり、楽器演奏を聴いたり、ご近所さん同士のおしゃべりを楽しむコーヒータイム。これはこれで楽しいのですが、昨年からのサロンに併せ、ちよつとした知識も身につけようという取り組みが始まりました。その名も「馬池 博学教室」。

先生は参加者自身。つまり自分の好きなこと、得意なことに関するミニ知識をみんなにお裾分けるわけですね。

「馴染みの薄い民族楽器をもっている人には楽器のルーツや音色を。喫茶店のマスターならコーヒー豆の知識やおいしい淹れ方を。ちよつぱり学んで家でも話題にしてもらう。博学教室は知識をもちろつただけでなく、披露してくれる人たちが自身も喜んでくれています」。

みんなの知識や経験が集まれば、誰もが博学になれるのですね。子どもたちだつて負けていません。コロナ禍で、自宅でも何かチャレンジできないかと開催したのが「馬池ファミリーぬりえ」。

春夏秋冬、季節ごとに配ったぬり絵には100点もの応募がありました。

「賞も設けて新年会の時に披露しています。集会所や掲示板にも展示して町内の人に観てもらっています。馬池で生まれ育つ子どもたちが『ふるさと』として誇れるまちになつて欲しいですね」。

内園さんは言います。「馬池町は池を埋め立てできたまち。昔を知る人からは不便な所だったと聞いています。それが今は生活にとっても便利な所になりました。馬池だけに「サラブレッドのまち」だと思ってます(笑)。

住民一人ひとりが「暮らしを楽しめるまち」をつくっていく馬池町です。

そう、お楽しみはこれからだ。

玄関先で、ガレージで



▲町内マップ片手に各家庭を回ります



集会所などで作品展示や活動発表をするイメージがあります
が、ここ大塚団地では町内がま

るまるギャラリーになるのが面白いところ。各家庭の玄関先やガレージも使つて住民一人ひとりが趣味の作品などを展示するのです。時には前夜祭での琴・尺八の演奏会、イルミネーションでまちを彩り、25か所ものミニギャラリーが生まれたときもありました。

マップ片手に町内あるき

たくさんのおもしろ作品が集まります。絵画・ちぎり絵・花壇の花を生け垣さえも作品として楽しませてくれます。観るばかりでは

なく、お茶席なんかも設けられ隣で琴を演奏する人育てた菊で飾りつけてくれる人もいます。

植木・産直野菜などの販売コーナーもあつて、手づくりのケーキやクッキーでお茶を楽しみながら、おしゃべりの花が咲きます。子どもたちもはりきつて手づくりコースターを販売です。

出展する人も、そうでない人も、町内マップを片手に各家庭を回るスタンラリーも好評。「あそこのおばあちゃん、刺しゅうをしてたんだ」と感心し、「こんな細い路地があつたの知らなかった

」と新たな発見や出会いで盛りあがります。

地元でも活かしてもらいたい

文化祭を立ち上げたメンバーの一人、三木さんは振り返ります。「当時、私は矢倉公民館に勤めていました。そこで出会ったたくさんの方のサークル活動。こんなにたくさんの方が色々とチャレンジしていることに驚きました。大塚団地の方も結構いたりして、ぜひ地元の町内でもやってもらいたいって思つたんです」

自分が楽しむために始めた趣味も他の誰かとその楽しみ方を共有したり、反応をもらったりすることで、次のやりがいにつながる、なんてことも少なくありません。

そんな楽しみ方を地元の町内会で受け止め、住民同士のつながりやまちの活力へとつなげる大塚団地の取り組みも、これからの一つのカタチですね。

なんとも素敵な町内会です。

FEATURE

人・モノ・コトと学校をつなぐ

地域の宝といえはやはり子どもたち。そしてその子どもたちが多くの時間を過ごす小学校です。未来を担う子どもたちは、地域にとってもキラッキラの宝もの。そんな子どもたちや小学校と地域をつなぐ人たちがいます。そこには素敵な物語もありました。

大人たちの出番

今の子どもたちは、学校でたくさんのお話を学びます。国語や算数といった教科だけでなく、総合学習の時間では「まち探検」をしたり「昔のくらし」を学んだり。

こうなると先生だけでは大変。そこで地域の大人たちの出番です。地域コーディネーター

は、地域の人・モノ・コトと学校をつないでくれる橋渡し役。そして、小学校ボランティア(通称「小ボラさん」)は実習や体験学習と

いった授業を手伝ったり、花壇や草木の手入れなどをしてくれる、いわば縁の下での力持ち。

今、矢倉小では中谷さんをはじめ6名の小ボラさんが陰になり日向になり活動を支えてくれ

ています。

虫カゴのダンゴムシ

「昨日も校内倉庫で農機具の整理です」と中谷さん。砂場の砂が固まって使えないと聞くと地元のメンバーと一緒に耕運機で掘

り返します。農業収穫体験では授業の日までに土を耕し、授業で

の作業がしやすいよう日ごろの草刈りや水・肥料やりも欠かせません。

メンバーには長年、田んぼや畑仕事をやってきた人や竹細工名人など、それぞれの達人たちが揃っているのだとか。

いつものように畑の作業をしていた中谷さん。虫カゴと網を手



に、今にも泣き出しそうな生徒に出会いました。どうやら虫を捕まえて観察する授業で二匹も

もじうめスツキリ

矢倉にまつわるスツキリ。□に入る5文字を答えてね。
矢倉マップ(4-5ページ)にヒントがあるよ。

問

(1) 急ぐなら、まわり道でも確実な方法をとった方が早いとえ

いそが□まわれ

(2) 市内7か所に伝わる。

矢倉では居住組を中心に行われる

サンヤレお□り

(3) 川底が平地よりも高く全国でも珍しい川。

古川酒造のお酒の銘柄にも

て□じょうがわ

(4) 草津宿の有名なおみやげ。

今でいうペットボトルかな

□ょうたん

(5) 木村牧場のこれは学校給食でも取り入れられた

ぎゅう□ゅう

応募方法

ハガキに①答えの5文字②住所・氏名・年齢・電話番号
③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募
もお待ちしております。もちろん、矢倉以外の方も大歓迎!

必 5月16日(月) 必着

宛先

〒525-0032 草津市大路二丁目1番35号(キラリエ草津)

(公財)草津市コミュニティ事業団

「コミュニティくさつ5月号」係

☑ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 565-0411

プレゼント

応募いただいた中から抽選で「喫茶ランドシャフト」
(東矢倉4-1-3)で利用できるモーニ
ングコーヒーチケット3杯分(1000円
相当)を5名様にプレゼント。

イメージ▶



小ボラ誕生秘話

小ボラの誕生にはある人の存

ね。虫カゴに入
て嬉しそうに行きました。今
でもあの笑顔を覚えてます。ちっ
ちゃんことだけども、学校に
からこそできた経験やと思いま
す」



見つけられな
い様子。
どれ、と一緒
に探し始めた
中谷さん。「石
をどけるとダ
ンゴムシがいて

在があつたのだとか。今から15年
ほど前の話。矢倉に奥村實さん
という方がおられました。奥村
さんはお孫さんが矢倉小に入学
した時、校内の花壇や植木が荒
れているのに気づき、手入れをは
じめられたのだとか。

それからというものの、花の水や
りや雑草引きに毎日訪れるだけ
でなく、雨の日も嵐の日でも登校
時間には子どもたちの安全を見
守り続けました。



いつしか、子どもた
ちにも学校にも欠か
せない存在となつて
いた奥村さんが亡く
なつたのは2年前の
ことです。

その後、学校の呼び
かけに花や野菜を育
てる達人6名が地元
から集まりました。

「夏の草刈りとか大変な作業もあるけど、子どもたちが私
たちの顔を覚えてくれることが嬉しいし大切なことやと思い
ます。それにね」中谷さんは続けます。

「必要とされている実感はやりがいにつながるし、自分へ
の学びにもなってますよ。高齢者って、きっかけが見つから
ないだけで、何かしたい、役に立ちたいと思ってる人も多い
んじゃないかな。家庭と学校、それに地域との信頼関係が
あってこそ、子どもの安心安全につながるんだと思います」
今日も矢倉の未来が育まれています。

ポイント

矢倉まちセンを利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

矢倉のここが好き



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの
経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかなっています。